

検察側の罪人 (2018)

メディア 映画

ジャンル ミステリー サスペンス

製作国 日本

色彩 Color

時間 123分

初公開日 2018/08/24

公開情報 東宝

映倫 G

【キャッチコピー】

一線を、越える。

【解説】

雫井脩介の同名ベストセラーを「無限の住人」の木村拓哉と「ラストレシピ ～麒麟の舌の記憶～」の二宮和也の主演で映画化したミステリー・サスペンス。ひとつの殺人事件を巡り、容疑者として浮上した男を自らの正義感からあらゆる手段で追い詰めていくエリート検事と、そんな上司の捜査方針に次第に疑問を抱き始める後輩検事の対立の行方をスリリングに描き出す。共演は吉高由里子、平岳大、大倉孝二、松重豊、山崎努。監督は「日本のいちばん長い日」「関ヶ原」の原田真人。

東京地検刑事部のエリート検事・最上のもとに、彼に心酔する若手検事・沖野が配属されてくる。さっそく2人で都内で発生した老夫婦殺人事件を担当することに。すると最上は、被疑者の一人である松倉という男に激しく反応する。松倉はすでに時効を迎えている未解決殺人事件の重要参考人だった。最上は今回の事件も松倉の犯行と確信し、なんとしても松倉を有罪にしなければならないとの強い思いに囚われていく。そんな最上の意を汲み、松倉から自白を引き出すべく取り調べに力が入る沖野だったが…。

【クレジット】

監督 原田真人 Harada Masato

製作 市川南

企画・プロデュース 臼井央

エグゼクティブプロデューサー 山内章弘

プロデューサー 佐藤善宏

西野智也

協力プロデューサー 鍋島壽夫

ラインプロデューサー 芳川透

共同製作 藤島ジュリーK.

原作 雫井脩介

『検察側の罪人』(文春文庫刊)

脚本 原田真人 Harada Masato

撮影 柴主高秀

美術 福澤勝広

衣裳 宮本まさ江

編集 原田遊人

キャスティング 杉野剛

音響効果 柴崎憲治

音楽	富貴晴美		
	土屋玲子		
照明	大坂章夫		
録音	矢野正人		
	鶴巻仁		
装飾	籠尾和人		
	高橋光		
	岩井健志		
VFXスーパーバイザー	オダイッセイ		
ヘアメイク	酒井啓介		
スクリプター	西岡智子		
助監督	桑原昌英		
	谷口正行		
プロダクション統括	佐藤毅		
Bカメラ撮影	堂前徹之		
出演	木村拓哉		最上毅
	二宮和也	Kazunari Ninomiya	沖野啓一郎
	吉高由里子		橘沙穂
	平岳大	Takehiro Hira	丹野和樹
	大倉孝二		弓岡嗣郎
	八嶋智人		小田島誠司
	音尾琢真		千鳥
	芦名星		運び屋の女
	山崎紘菜		最上奈々子
	大場泰正		前川直之
	谷田歩		青戸公成
	阿南健治		
	大川ヒロキ		
	田中美央		
	山村憲之介		
	赤間麻里子		
	長田侑子		
	黒澤はるか		
	土屋玲子		
	三浦誠己		
	酒向芳		松倉重生
	矢島健一		高島進
	久保酎吉		
	東風万智子		
	キムラ緑子	Kimura Midoriko	桜子
	松重豊		諏訪部利成
	山崎努		白川雄馬